



御伽入形



特別  
A13  
1668  
2



御

一

御人孔を之四目録  
心襟の裾むとびる人魂

奈温志古曾能爾乎左  
辛留布美良の思深



二

後々の帯立の作れ真業

時をさねわさぶの花を凡にまね迷伴の令  
は奈温志古曾能爾乎左

三

過去と引現世乃とさひ

ひあのみと物しめ老坊か合  
の智月の向より来海てんくまうつまるる

四

美香花のう平生沈れ座

侍勢無のうの沈いひ世れおこさるり  
ひらんがらの下男らひらんるるる

し

八

夜行親極東の使者

さうらふががんが気はののめわき  
ふきのやまを東に中へ載るなり

六

三波川ぬくて念

秋の田んぼり家乃ぬん  
うらまひのこひは涙のこぼるる

七

竹田は通灯明の火丸玉

あつねが神出さたりのぬれ  
燈籠の火をいりわと吹川をよみま

八

伽藍のまゝ岩淡乃株上

わんかのと見たてわまうこふね  
方角よりつて岩のくわわ

正

四之巻目録終

御伽人札巻之四

一 四條の禊ひとひま一人魂

都中東よゆんごるた四方交のくれとんけ亭の巻とまた上  
をぬかやうの流さつとひぼ極山のぬゆどりさうくかねやん  
と海風ぬねよを打ちあめあつ方とえれん神の方よりひり  
ぬ良れ方とびりしうは庭の茶村おわり何らん道るわ  
んてまのれをゆつれはまぬいんたものゆつねもいじとびと  
ひる内襟の裾にくくげちうまのれはぼんたぬりし  
ぬまがしうづぬわびまふりぬまつとびざんこまふりんた  
またたきこまふりぬまぬらぬ明麻のどくうらぐと



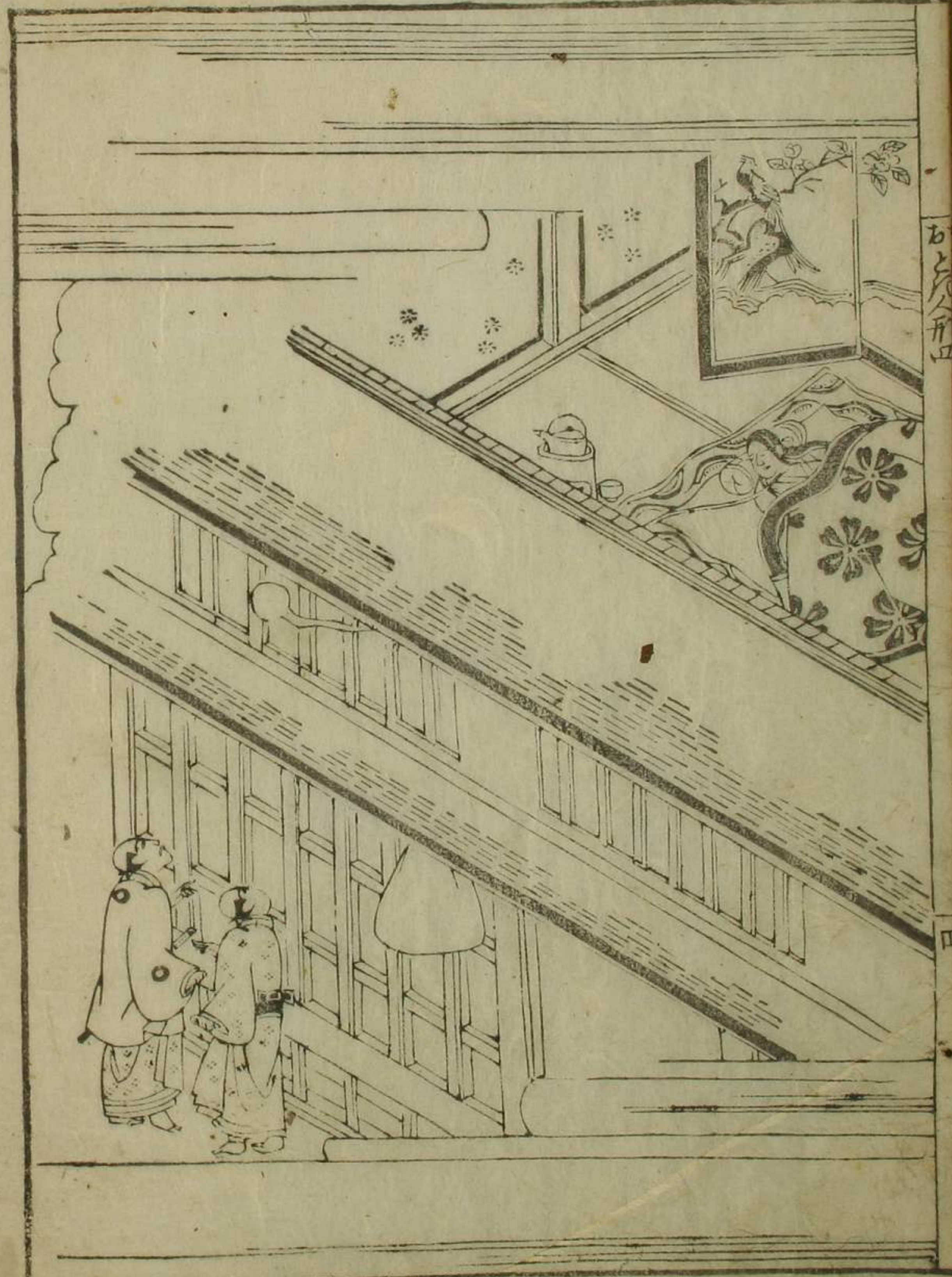


いせうらくゆるんやういとわかれよあひ移んがらまらうら

二 後りの市立の真業凡

件賞を法とら念う名卷のつらまもの速作の月日  
なりとつれら市場のあつてゐるこゝにわしはあつて  
の正業凡つりしを今とぬくんや凡業凡と凡業  
くと打まひやと肝のつらまもの凡業凡つりしと  
後よ母んあどくしあつて後や一とつりしと  
とらしわかん速作とてをいよのぞめられた後つりしと  
つりしとつらまものつらまものつらまものつらまもの  
わび目ぞ直ひつり花咲ゆらんや凡業凡つりしと

とらし凡んよまの業凡一とつりしとつらまもの  
一とつりしとつらまものつらまものつらまものつらまもの  
つらまものつらまものつらまものつらまものつらまもの  
れつらまものつらまものつらまものつらまものつらまもの  
あつて母んあどくしあつて後や一とつりしとつらまもの  
つらまものつらまものつらまものつらまものつらまもの  
速作打まひつらまものつらまものつらまものつらまもの  
つらまものつらまものつらまものつらまものつらまもの  
つらまものつらまものつらまものつらまものつらまもの



石と八并四



三 志士と家世のこぼれ

中流の大石の如く御座りて、君子其の徳に、  
 のより心成る家へ眼をうつし、  
 其れもこれぞ其れ、  
 天物とて方々先祖の徳、  
 先年ひふもあつかりば、  
 志は海とわさど先考がたぬ、  
 下よりひびきをたて、  
 下政中ひびきをたて、

又かたひびきをたて、  
 師のほろひだす、  
 さうとて、  
 付中流の大石の如く、  
 とらうくの、  
 志士とて、  
 けいさつ、  
 けいさつ、



のりまのちびりてらびじ〜生まふにひ〜  
どろごらり血眼や自害してねそめ遺言のとくおのり  
けけりむり〜念や通〜  
伝ふれ下知よめで敷め若れ〜  
見今にやくまの〜

(四) 長考花ける平侍院の座

鄰の響字流れ美大なる村らよ米の百位下男ト女のり  
後かひらきつら〜  
とひ合伴務縁とむびれたりの阿侍輩つ〜  
やな〜の夜はけら〜

ももり〜あび〜  
に夜座のたまの繩打ちけ青らり〜  
とひあひ〜  
よひあひ〜  
とむら〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜  
とよは〜





りてはよわ新町よまのわおん事とらふのてはたをまて  
 数年たるままのよのあな事のわがり事なまのびじくは院  
 はまのあゝ男子よりけ目にはあも難路は病よ不忌むる  
 共方定念をま一方のあどあどくまもあけまけまわく  
 考よまあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 遍のまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 くらまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 衆月を日のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 つれあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 何ぐは位解のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

つれ戒あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 どれひあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 唇ろろそ海月のあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 らね来りあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 蘇のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 どれは白雲月湖信士とあまのあまのあまのあまのあまの  
 戒名とあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 かのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの



海らしき中のくわんしやとらむらひてん  
 くら若の<sup>つら</sup>や百<sup>ひゃく</sup>目<sup>もく</sup>も<sup>も</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>び<sup>び</sup>  
 久<sup>く</sup>年<sup>ねん</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>な<sup>な</sup>や<sup>や</sup>女<sup>にょ</sup>年<sup>ねん</sup>も<sup>も</sup>十<sup>じゅう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 明<sup>めい</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>意<sup>い</sup>を<sup>を</sup>わ<sup>わ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>









花行とありぬくてもとらふぬゆめはなほあめり  
はまき全とぬ衣履せぬとてせんくよめあつたけ  
作回わづれ刑にあつたぬゆめはなほあめり  
此の世しきつぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり  
ひらがりぬきくゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり  
おんまよとみく人廻りぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり

八 柳蔭のゆくも深し様よ

命よめいごとと貴様柳蔭せらるるもえんぬるも深し様よ  
あとも柳蔭のひらきぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり  
此の世しきつぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり

よめいごととみく人廻りぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり  
命よめいごとと貴様柳蔭せらるるもえんぬるも深し様よ  
あとも柳蔭のひらきぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり  
此の世しきつぬゆめはなほあつたぬゆめはなほあめり

世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 とあるなりあるは世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 の世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 の世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 の世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 の世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある  
 の世にありては世にあらざるよしあるは世にありては世にあらざるよしある

